



なぜ、今、タリタクムなのか？

タリタクム日本運営委員長

シスター弘田 しずえ(ベリス・メルセス会)

世界が、本当にグローバル化していることを実感したのは、新型コロナウイルスの蔓延であったと思いますが、人身取引もグローバル化の負の現実を如実に示しています。人間が「モノ」として売り買いされるという許されない犯罪が、実は私たちの日常生活の近くにあることを今、改めて認識したいと思います。コロナも、気候変動も、そして人身取引も、全てが繋がっているという現実を、私たちに突きつけているのですが、問題がマクロになると一人が何をしても無駄だろうという不毛の諦めが常識的になるようです。全てが繋がっているという真実は、一人ひとりがどのように生きるかの問いかけです。コロナも気候変動も一人ひとりが、自分と他者のいのちを大切にするために行動しなければ、地球と人類の未来は、決して明るいものにはならないでしょう。

人身取引というグローバルな問題も、同じように私たち一人ひとりの意識と行動がなければ、多くの人々、特に女性と子供たちが、使い捨ての「モノ」として「消費」されていきます。タリタクムは、この現実に対して人間らしく向き合うこと、一人ひとりを友達として受けとめ、寄り添う暖かさと優しさを示すグローバルなネットワークです。タリタクムは、その目的を次のように述べています。

- ✚ 人身売買や人的搾取の被害者、危険にさらされている人たちを癒す
- ✚ 身体的、心理社会的、精神的な傷を回復する
- ✚ 被害者、生存者、危険にさらされている人々の声を増幅させることで、エンパワーする
- ✚ 司法へのアクセスを促進することにより、人間の尊厳を再生する

具体的にこのような活動に参加できなくても、大切なことは、関心を寄せる、意識する、連帯することではないでしょうか。20世紀の運動体は、「グローバルに考え、ローカルに行動する」というスローガンを掲げていましたが、私たちは今「グローバルにローカルに考え、行動する」時に生きています。タリタクムの協力ネットワークに参加する意味は、このことだと信じています

タリタクムオンラインセミナー2022

タリタクム日本運営委員

山岸素子

さる5月21日、タリタクム日本の主催によるオンラインイベント「技能実習制度の課題と新たな外国人労働者受け入れ制度を考える～制度見直しの動きとカトリック教会の取り組みから～」が開催されました。当日は、日本各地の修道会やタリタクムアジアの方々も含め、306名の方が参加されました。

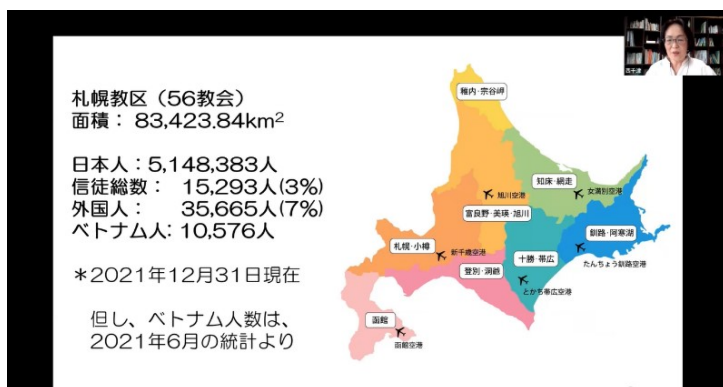
今回のセミナーのテーマである技能実習制度は、人身取引の温床、現在の奴隷制度などとして、国際社会からも長年にわたり、強い批判にさらされてきました。タリタクム日本のこれまでの活動の中でも、重点をおき、啓発や支援に取り組んできた課題の一つです。今年2022年が、技能実習法の施行後5年ということで、制度見直しの時期にあり、法改正を含めて政府内で見直し議論が進められていることから、外国人労働者受け入れのあるべき方向性について考えるとともに、今、起きている技能実習生への人権侵害に対し、今後もカトリック教会として、また一人ひとりの現場でどのような取り組みができるのかを考えていこうという趣旨で開催されました。

タリタクムの担当司教として開会のご挨拶をされた山野内倫昭司教は、「これからの教会のチャレンジ」として、改めて世界のタリタクムの活動を紹介するとともに、最近のさいたま教区の司牧訪問で出会ったベトナム人技能実習生やラテンアメリカからの労働者の家族らのコロナ禍での苦しみについてふれ、これを乗り越える教会のチャレンジとして、共同体して集い祝うことの大切さ、キリストによって一つの体・ひとつの心となり、「もっと広いわたしたちの共同体」を求めていくことの大切さをお話されました。



次に、外国人技能実習生権利ネットワーク運営委員の旗手明さんから「外国人労働者受け入れ制度見直しの課題～技能実習を含むローテーション政策の限界～」と題して講演をいただきました。旗手さんは、豊富なデータや具体的な事例も示しながら、技能実習制度の根幹的問題として、巨額の債務を背負って来日し、来日後は原則として

転職の自由がなく、権利を主張すると「強制帰国」をさせられる実態を指摘し、制度は改善では問題は解決せず、廃止が必要であると強く訴えました。2019年4月からスタートした「特定技能」による受け入れも、コロナ・パンデミックなどの状況もあって進んでいません。このような状況をふまえて旗手さんは、技能実習制度をふくむローテーション政策の限界は明らかであり、それに変わる定住型の労働者受け入れ政策に抜本的に転換することこそ必要であり、労働者、市民としての十分な権利を保障する政策が求められると力説しました。



その後、カトリック教会での技能実習生や外国人労働者支援の取り組みとして、札幌教区、さいたま教区、福岡教区での取り組みの報告がありました。札幌教区の難民移住移動者委員会の西千津さんからは、札幌教区でもベトナム人が各地域で増えるなかで始まった、函館

や旭川地区での日本人・ベトナム人が協働する取り組みが説明されました。そして、妊娠したことで解雇されたことから帰国支援をした技能実習生と特定技能の在留資格の2人のベトナム人女性のケースが紹介されました。また、さいたま教区のオープンハウスのシスターレティランからは、ベトナム人技能実習生の妊娠による強制帰国や中絶のケース、労災やコロナ禍での新たな課題などに対する相談支援やセミナーの開催、食糧支援などの多岐にわたる活動が紹介されました。最後に福岡教区難民移住移動者委員会の有吉和子さんからは、地域の労働組合と連携した技能実習生支援の具体例として、プラスチック加工や建設で働いていた技能実習生らの暴力や未払い賃金、妊娠のケースなど、具体的な4つのケースの詳細と解決に向けた取り組みが紹介されました。有吉さんは、7年にわたる技能実習生の支援活動を通じて「実習生は安価な使い捨ての労働力ではありません。未来を担う大切な若者、人間です」と訴えました。

質疑応答では、技能実習生の権利についてなどの質問がありました。また、J-CaRMも賛同団体となって取り組む「技能実習制度廃止！全国キャラバン」についての情報提供や意見交換が行われました。最後に、閉会のご挨拶でタリタクム運営委員長のシスター弘田しずえが、「セミナーで話を聴くだけでなく、技能実習制度の廃止と人間として尊厳をもった労働者の受け入れに向けて、一人ひとりができる取り組みをしていきましょう」と呼びかけ、セミナーは締めくくられました。タリタクムでは、引き続き、労働搾取の制度に対して声をあげるとともに、搾取される被害者への支援活動と人身取引の啓発活動を継続していきたいと思います。



小さいのちを守るために

カトリック札幌司教区難民移動移住者委員会
西 千津

香港で家政婦として働いていたフィリピン人女性 A さんは、雇用主家族のスキー旅行に同行して、北海道へ来ました。その翌日、彼女は腹痛を訴え、隣町の病院へ運ばれ、そこで 1,060g の小さな赤ちゃんを出産しました。彼女は妊娠していることを知っていましたが、赤ちゃんの父親とは婚姻関係になかったことから、この旅行が終わったら、フィリピンへ一度帰国し、出産をした後にまた香港で家政婦をするつもりでした。雇用主から北海道行きを告げられた時、行ったことがない日本、見たことのない雪景色に心が引かれ、きっと大丈夫だろうと思い、雇用主には何も言わず、旅行保険にも妊娠していないとサインしていました。

出産した病院では対応できないため、赤ちゃんはすぐに NICU(新生児集中治療管理室)のある札幌の病院へと搬送されました。そして、雇用主はこの時点で A さんに帰国費用と少しの生活費を渡して、彼女を解雇しました。途方に暮れた彼女が頼ったのは、在日フィリピン大使館でした。大使館は、すぐに北海道フィリピン協会(以下、「協会」)に連絡を入れ、赤ちゃんのいる札幌へ A さんを連れて行くという協力を仰ぎました。協会としては、札幌まで A さんを連れて行くのは大した問題ではありませんでした。問題は「それから A さんと赤ちゃんをどうするのか…」ということでした。協会のメンバーから「札幌で住む所を探して欲しい」と私に連絡が入ったのは A さんを迎えに行く 2 日前でした。

赤ちゃんは妊娠 6 か月で産まれました。札幌に来た当初は 800g 代までに減っていましたが、幸いなことに



大きな障害もなく、このまま順調に育ち、2,300g を超えたら、退院し、帰国はできると言われました。おそらく 3 カ月くらいかかるということだったので、病院のスタッフと協会のメンバー、そして、A さんを交えた協働体制が始まりました。赤ちゃんは自力で母乳を飲めない小さな身体ですが、できる限り母乳を与えていきたいという病院側の希望もあり、A さんは毎日病院へ通うことを提案されました。

実は、この病院は創設時に「マリアの宣教者フランシスコ修道会」が関わっており、経営移管されるまではずっとシスターたちが奉仕をされていました。今も札幌修道院は病院のすぐ近くにあり、病院の関係者の中にはシスターたちの元で学んだ人もいましたので、私たちには「マリアの宣教者フランシスコ修道会」にお願いするしかない…という思いしかありませんでした。事情を説明すると修道院長をはじめ、皆さんはすぐに快く承諾して下さい、Aさんは修道院のお手伝いをしながら、病院へ通うことになりました。

滞在先の確保ができてホッとしたのもつかの間、次の問題が起こりました。医療費です。Aさんは、旅行者として短期滞在で日本へ来ていますので、国民健康保険の加入ができません。また、医療保険も「妊娠していない」という虚偽の報告をしていますから対象外です。そうすると医療費は全額負担になり、1か月3～400万円、3カ月で1,000～1,200万円という金額が予想されました。もちろんAさん本人の責任もありますが、とてもその金額を払える見込みはありません。私たちは過去の事例を調べ、いろいろな方の協力を得て、オムツ代など医療費以外は支払いました。幸い、残る医療費については、赤ちゃんが養育医療の対象となり、月額2,600円の負担分だけで済みました。神に感謝です。そして、シスターたちの計らいでAさんは帰国後すぐに海外へ出稼ぎに行かなくてもいいように支援を受けることもできました。

産まれた赤ちゃんは、雪景色の中で生まれたので「ゆきちゃん」と修道院で呼ばれていました。シスターたちは、毎日Aさんにゆきちゃんの様子を聞き、祈りました。それは、Aさん自身がゆきちゃんが生まれたことを肯定的に捉えることに繋がりました。今、ゆきちゃんは4歳になり、Aさんは誕生日が近づくと、必ず写真を送ってくれます。



タリタクム・インターナショナル、タリタクム・アジアからの最新レポート

タリタクム日本運営委員
クレア サンチェス

第三回タリタクムリーダー養成コース

タリタクムは、リーダーとしての可能性を秘め、今後の問題に対処し、目まぐるしく変化する人身取引の状況下を進むことのできる人を、2018年1月に始まったプログラムのもとに、養成し続けています。私は幸いなことに、シスターアビーの推薦により、このコース(2022年3月4日から2023年3月)に参加しています。22か国から32人の参加者がオンラインで毎週金曜9時半から11時半まで、英語とスペイン語、フランス語で学んでいます。このコースは、専門的なスキルや人とかかわりを育むスキル(例えば、リーダーシップモデル、ネットワーク、企画開発、経営、広報、資金調達)を高め、リーダーの資質を向上させます。最後には、論文の提出が求められます。

私が信徒宣教者として日本に来る動機となったのは、1980年代から今日に至るまで、エンターテイナーとして日本で人身取引されてきたフィリピンの若い女性たちの窮状です。私は日本に来て8年になります。10年前とは状況がまったく異なります。世界の情勢はこくこくと変化しており、視点も考え方もアプローチも進化しています。だからこそ、女性と外国人の現在のニーズに効果的に対処するために、自分の専門スキルと知識、かかわりを育む力を刷新する必要を感じたのです。このコースは、今の私の活動にとって願ってもない機会です。

タリタクム・アジアのネットワーク

タリタクム日本とタリタクム・アジアのネットワークにも参加しています。新人として、オンザジョブ・トレーニングを受けているかのように。毎回、ウェビナーやオンライン会議に参加するたびに学んでいます。タリタクムのメンバーと会うたびに、啓発や支援活動、ネットワークをいかに大切に、積極的に取り組んでいるかを目の当たりにします。これまで参加したアジア各国のウェビナーは以下の通りです。タリタクム・カンボジア「女性と少女を力づける、役割と対応」(1月29日)、人身取引に反対する祈りと啓発の日(2月8日)の祈りのリレー、タリタクム・バングラデシュ「人身取引の阻止、強制的早婚を無くし、子供の幸せを守る」(2月26日)、タリタクム・タイ「人身取引への対応・自給自足、経済、女性と地域社会の促進」(4月30日)。タリタクム・インドネシア「サプライチェーンにおける人身取引と奴隷制に対して」(6月11日)。

8月22日から25日には、タイで開催されるタリタクム・アジア地域会議「人身取引を無くすためにアジアのネットワークに網を打つ」に初めて参加します。その主な目的は、アジア地域におけるタリタクムのネットワークを拡



充し、宗教、民間を問わず他の団体との協力関係を広げることです。こうしたタリタクムのささやかな足取りが、神のみ国を示す一助となるよう願ってやみません。



若者の声

タリタクム日本ユースアンバサダー

細井 梨世

友人が一度私にこう言ってきたことがあります。

「人身取引は途上国で起きている問題だから、日本には全然関係ないよね」と。

私もかつては彼女のように考えていました。人身取引はどこか遠いところで起きていることだよな、と。何故か、この問題がリアルに感じられなかったのです。今考えると、無知であったと深く反省しています。タリタクムユースアンバサダーとして人身取引問題に対して学びを深めていく中で、日本でも人身取引が起きていること、決して他人事ではなかったことに気づきました。スーパーやコンビニといった場所で私たちが普段手にしている製品の制作過程に携わる人、特に技能実習生が対象となり、問題が起きていることを学びました。様々な人の犠牲によって、商品が手元に届いていたことを知りました。

「人身取引はどこか遠いところで起きている問題だから、自分には関係ない」とこれ以上どのような顔をして言えるでしょうか。

私たちタリタクムアンバサダーは「日本の若者に人身取引を自分事として捉えること」を望んでいます。SNSでの情報発信やイベントの開催を通じて、問題意識の喚起を行っています。インスタグラムでは活動報告を主に、イベントでは人身取引に関する情報共有や分かち合いを通して目標達成に向けて取り組んでいます。ぜひ一度、私たちのSNSに目を通してください。そして、イベントに足を運んでいただければ幸いです。

どんな問題が具体的に起きているの？何か自分にできることはないかな？といった質問にも、イベントを通じて、みなさんと分かち合っていきたいと思います。

私たちはイベントの最後に「今日知ったことを、広めてください」と参加者の方をお願いしています。ご家族でも、友人でも、クラスメートでも、パートナーでも、どなたでも構いません。人身取引について細かく知らなくちゃ、と気負う必要はありません。まずは、「人身取引」という言葉を知ることがスタートです。笑顔から平和は始まるとマザーテレサはかつていいましたが、平和への一歩は、「知ること」からでもあると信じています。

マザーテレサの言葉を最後に引用したいと思います。

「私たちのしていることは大海の中の一滴にしか過ぎません。しかし、その一滴が集まって大海となるのです。」

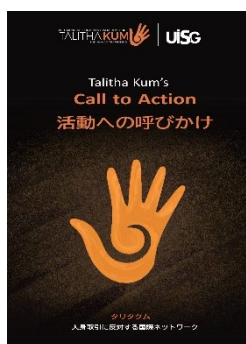
一緒にその一滴になりましょう！！



『活動への呼びかけ(Call to Action)』発行のお知らせ

昨年末、タリタクムは今後の活動の指針となる文書『Call to Action』を発表しました。国際女子修道会総長連盟が創立したタリタクムは、人身取引の災禍を根絶するために、政治、組織、全ての善意の人々に呼びかけています。

本書は、「シスターに、カトリック教会と他宗教の指導者に、信者でない人に、協力者、友人、そして人身取引も搾取もない世界というビジョンを共有するすべての民間組織の人に向けられています。……この呼びかけには 4 つの主要目標があります。1. 人身取引や搾取の犠牲者と危機に陥っている人を**ケア**する。2. 身体的、心理社会的、精神的な傷を**いやす**。3. 犠牲者、被害者、危険にさらされている人の声を高めることにより、彼らの**力を引き出す**。4. 司法制度を活用できるよう促し、人間の尊厳を**取り戻す**。」(本文よりの抜粋)



この『活動への呼びかけ』は、連帯と活動のための靈性に基づく協力ネットワークの強化を目指し、人身取引という暴力の被害を受けている人びとにどのように寄り添うのかを具体的に説明する文書です。教皇フランシスコが「現代の奴隷制—人類の尊厳に対する災難」と表現した人身取引を身近な問題として理解するために、ぜひ手にとってお読みください。

この冊子は、J-CaRM のホームページでご覧になれます。ご希望の方には無料で頒布しますので、右の QR コードからお申込みください。



秋のオンラインセミナーに参加しましょう！

春のオンラインセミナーに引き続き、タリタクム日本は、技能実習制度に焦点を当てたオンラインセミナーを再度、開催します。日程は 10 月 1 日(土)14 時から 16 時までです。英語の同時通訳付きです。詳細が分かり次第、お知らせしますので、是非ご参加ください。



募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしくお願いいたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄に☒を入れるか、

通信欄に「タリタクム日本」と明記してください

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話:03-5632-4441 FAX:03-5632-7920 E-mail:jccarm@cbcj.catholic.jp